

文房四宝

資料提供

(株) 四宝堂

【第六回】「筆の原料」

◇はじめに

書道において欠かすことのできない文房四宝（筆・墨・硯・紙など）について、基本的な知識を中心に連載しています。筆はさまざまな原料で構成されており、穂には獣をはじめ鳥や植物など、多数の動物の毛や植物の繊維が用いられています。今回は、原料と筆の命でもある穂についてお話しします。

◆筆を構成する原料

市販されている筆は、幅広い価格帯で店頭に並んでいます。高価なものだと数万円以上、安価なものは百円ショップなどでも購入することができますが、価格差は主に製作工程と原料の違いにあります。

■さまざまな穂

筆は、主に穂となる毛の部分と、その毛をまとめる糸、そして持ち手となる筆管の三つから成ります。書きやすい筆を作るためには、より良い原料の確保が最も重要です。特に、穂とな

る毛の選別によって筆の出来が決まる、と言っても過言ではありません。

一般的に穂の原料として使われているのが、馬、羊、イタチ（写真1）、タヌキ、鹿などの獣毛です。その他にも特殊な筆として、鳥や植物などで穂を製作した筆もあります。ちなみに、身近な動物でも牛の毛やウールの原料である羊毛などは、巻き毛でカールしているため筆の原料にはなりません（唯一、牛の耳の毛は使うことがあります）。また、豚は直毛ですが毛先が二つに割れているため、画筆以外にはあまり使用しません。最近ではナイロンを使用した筆もありますが、やはり墨含みの良さなどを考える

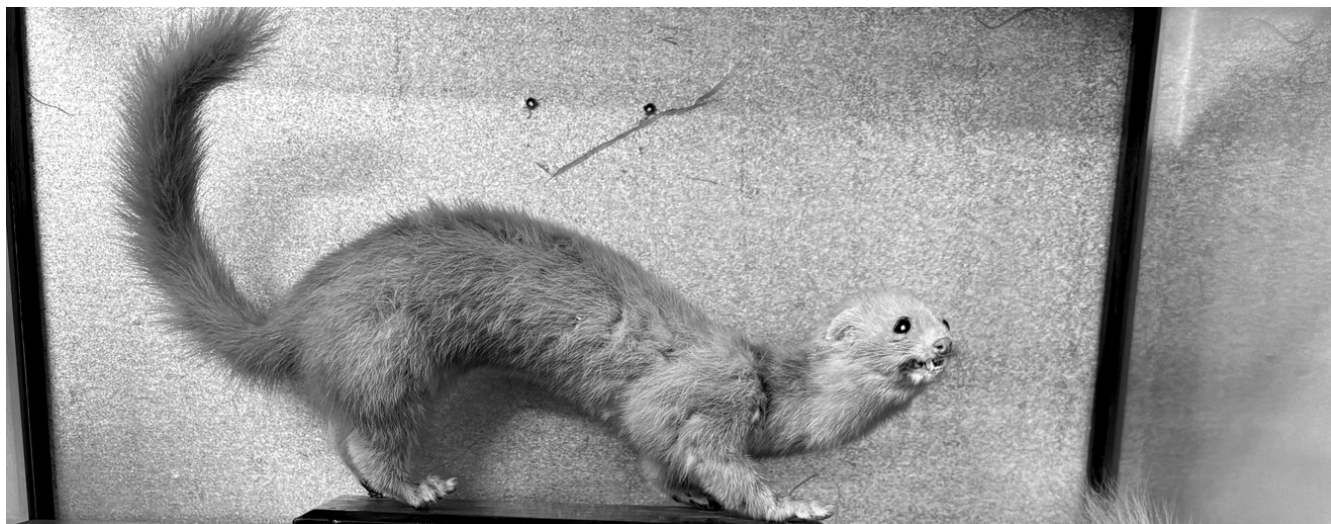
と獣毛を使用した筆をおすすめします。

■獣毛の特徴

獣毛は、動物の生息域や気候などによって毛の持ち味（性質）が異なります。また、一頭の動物から採取した毛でも生えている部分によって、毛の弾力や細さ、毛筋の形状などにさまざまな違いがあります。そのため目的に応じて毛を選び、バランスを見ながら混ぜ合わせて穂を作ります。

また、動物の毛は体の外側の毛と内側の毛で大きく特徴が異なります。外側の毛は外気から体を守り雨や風をしのぐ、言わば身を守るための毛です。そのため真っすぐに伸び、毛質は硬く、針金のようなものが多いのです。一方、体温の調節などを行うための内側の毛質は、柔らかく細かいものが多いです。このうち筆に適しているのは、太くて長く、ほぼ真っすぐに生えた外側の毛です。

しかし、外側の毛は動物たちが生息している環境によりさまざまな影響を受け、傷んだり、擦り切れているものもあります。筆の穂に最も適した毛の条件は真っすぐに伸びていることなので、原料として適さない粗悪な毛を職人が一本一本選定して取り除く作業（写真2）を行います。



【写真1】イタチの毛は弾力があり筆に理想的な原毛だが、流通量の減少に伴い入手困難となっている



【写真2】職人の手で丁寧に選毛を行う

また、より良い動物の毛は太くて硬く長いことに加えて、毛先が細くなっている毛です。特に先端の半透明な状態が多いほど、優れた原毛とされます。

この半透明な部分は「水毛」と呼ばれており、雨や風、雪に最も接してきた部分です。そのため一定の水分にさらされてきた水毛は、筆の穂に使用されたときに墨と非常に良い調和をもたらします。

なお、筆は一体の動物の毛のみで作る方法と、複数の動物の毛を複合して作る方法の二種類があります。一種類のみで混じりのない毛で作る

筆は羊毫^{ようこう}、または純羊毛と呼ばれており、高級品とされています。

また、硬い毛や柔らかい毛など、数種類の動物の毛をバランス良く組み合わせで作られた筆を兼毫^{けんこう}といいます。兼毫の場合は、組み合わせやバランスの取り方によって、筆の性質も全く変わってきます。

■筆作りの課題

筆作りで一番大切なことは、原料の確保です。現在、穂になる原料（毛）のほとんどは中国などから輸入した獣毛です。しかし、野生動物の取引規制や物価高騰などによって、今日では獣毛の流通量が減少し、獣毛を入手することが非常に困難になっているのが現状です。

書道の文化を守るためにも、原料の確保が私たちの切実な課題になっています。

◆筆作りに使用される主な動物の原毛

穂に使用される原毛や、特殊なつくりをした筆を紹介します。

■原毛の種類

(1) 羊毛

筆に用いられる羊毛は中国の江南地方に生息



【写真4】珍しい猪毛の筆



【写真3】馬毛（右）と鹿毛（左）の筆



【写真6】羽根の色が穂に表れたインコの筆



【写真5】鮮やかなクジャの羽根が使用されている

する山羊^{やぎ}の毛です。毛質の異なる原毛を部位ごとに複数種類採取できます。

(2) 馬毛（写真3）

馬の尾の毛は非常に弾力が強く高級品です。また、胴の毛は柔らかく、小筆や水彩画筆などで幅広く使われています。

(3) 鹿毛（写真3）

鹿の毛は中が空洞で墨含みが良いため、さまざまな筆の根元に使用されます。

(4) 猪毛（写真4）

弾力があり毛が太く、荒々しい線を書くことができます。ただし、書道には不向きで主に水墨画用の筆に使用されています。

(5) 鳥の羽根（写真5、6）

毛ではなく羽根が使用されます。書道にはあまり向かず、芸術書道などで創造性に富んだ作品を書きたいときなどに選ばれます。

(6) イタチの毛

イタチの毛は主に尾の毛を使用します。非常に弾力が強く滑らかなため小筆や高級な大筆などに使用されます。

(7) タヌキの毛

タヌキの毛は背筋の一部にまばらに生えている長い毛を使用します。弾力が非常に強いいため、他の原毛に混ぜて使用します。



【写真7】独特な書き味の竹筆



【写真9】筆管が陶器の筆も存在する



【写真8】最古の筆と同じ形状の天平筆

(8) 猫の毛

猫の毛は粘り気のある弾力が特徴です。仮名用の筆に使用されることが多いです。

■特殊筆

(1) 竹筆（写真7）

竹筆は筆管も穂も竹で作られます。穂先は、竹を叩いて粉碎し繊維を出して作ります。穂が硬いため繊細な線質は表現できませんが、文字のかすれや豪快な線を表現することができます。

(2) 天平筆（写真8）

奈良の正倉院に伝わる最古の筆と同じ構造で作られた筆です。雀の頭のような形の穂先は、中心になる命毛に紙を巻き、次に毛、次に紙、また毛と、交互にいくつも重ねて作ります。主に写経などに使用されます。

なお、今回挙げた筆の他に筆管が陶器の筆もあります（写真9）。ぜひ、用品店で直接手にとり違いを感じてください。職人は書道文化を守るため獣毛以外にも穂に成りうる毛（ムジナ・ハクビシン・ミンクなど）を日々模索し、また、先生方をはじめ使う方の便利に供するべく努力しております。次回は「職人が考える書体と筆の相性」についてお話しします。